

平成23年度 茨城県立水戸農業高等学校自己評価表

目指す学校像		知・徳・体を身に付けた社会に有為な人材を育成する学校。生徒一人一人の進路希望の実現を支援する学校。魅力ある農業教育を実践し、将来の農業経営者・関連産業技術者を育成する学校。体験学習・国際交流等を通してコミュニケーション能力を磨くことができる学校。地域社会の関係機関・団体・住民等と連携するとともにそれらに開かれた学校。			
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況	
[昨年度の成果] ・反復指導で基本的な生活習慣を身につけた生徒が増えた。 ・体験的学習で、素直で豊かな心を育む生徒が増えた。 ・教師自らが、それぞれの授業をこれまで以上に大切にしよう心がけたことで、生徒の授業に取り組む姿勢が良くなっている。 ・各科、学年、進路指導部等が一体となった進路指導の確立がある程度実践できた。 ・感染症への適切な感対応ができた。 ・農林水産部等との連携事業により、就農志向者の意識が向上した。 ・本県で開かれた全国産業フェアは大成功の内に終了することができ、農業クラブ活動の活性化にも繋がった。農業高校のPRもできた。 [本年度の課題] ・個に応じたわかりやすい授業を心がけ、授業への積極的な参加を喚起する。 ・各学年との連絡を密にして、1年次から体系的な進路指導体制の確立を図る。 ・LHR等あらゆる機会を利用して、進路情報を適切に提供する。 ・進路講話やインターンシップ等により、職業体験活動の参加数を高め、望ましい勤労観・職業観の育成に努める。 ・道徳教育を中心に、各教科指導を行う中で、規範意識を高め、規則を守れるようにする。 ・生徒会活動や農業クラブ活動を活発にし、魅力ある学校行事を実施する。 ・部活動紹介や見学会等を実施し部活動加入を促す。 ・資格取得を奨励し、学習意欲の向上を図る。 ・いばらきものづくり教育フェアの成功を期する。	・東日本大震災からの復旧、復興	・平常の教育活動をいち早く取り戻すため、職員、生徒が一丸となって環境整備に当たる。	・施設の復旧は当初の計画より遅れている。		
	・基本的生活習慣の確立	・挨拶の励行や身だしなみを整えるなど、基本的生活習慣を確立させる。 ・無断の欠席、遅刻、早退を防止し、時間を大切にするなど、規律ある生活習慣を身に付けさせる。 ・道徳教育や農業教育等を通して、豊かな人間性や素直な心を育む。 ・ボランティア活動等への積極的な参加を通して、思いやりの心を育む。	・基本的生活習慣を身に付けた生徒が増えた。 ・体験学習で素直な心が育成できた。		
	・基礎学力の向上	・授業時間を大切にし、授業研究を怠らず、授業の質的向上を図る。 ・幅広い学力を持った生徒集団に対応するため、学習指導の在り方についての研究授業や公開授業に積極的に取り組む。 ・自ら学習に臨む姿勢を育成し、生徒個々の能力の伸長を図る。	・授業に取り組む姿勢は良くなった。 ・職員の授業研究が必要である。		
	・系統的な進路指導と指導体制の確立 ・特別活動の活性化	・生徒の進路希望に沿った自己実現のために適切な支援を行い、100%の進路実現を目指す。 ・運動部・文化部等の加入率50%を目指し、魅力ある部活動を展開する。 ・成達会等の自主的活動を推進する。	・進路決定率73,16%で目標未達成。 ・部活動加入が目標に達しなかった。		
・健康と安全教育の充実	・健康管理、交通安全、機械や農薬事故等の防止など、安全教育の充実を図ると共に危機管理、防災、不審者対応などのマニュアルの点検を常時行う。 ・自然災害等に対する備えを行い、具体的な行動計画を作成し、訓練を行う。	・震災後防災意識が高まり、備えをするようになった。			
・農業教育の充実	・特色ある学校づくり支援事業の取組を推進することで、農業後継者の育成を図る。 ・全国農業高等学校アクションプラン「エコロジカル・アグリハイスクール」宣言に基づいた行動と実践を行い、その検証と評価を行う。 ①播種から収穫まで基本的な農業技術能力を持つ人材を育成する。 ②食の安全・安心教育を推進する。 ③インターンシップ、先進農家実習、奉仕体験活動を積極的に推進する。 ④環境教育を推進する。 ⑤開かれた学校を目指し、農業教育普及活動を展開する。 ・プロジェクト学習や各種発表会・競技会等に積極的に取り組ませることにより、農業クラブ活動の充実を図る。 ・いばらきものづくり教育フェアの準備・運営を通して、農業教育の活性化を図る。 ・資格取得試験の合格率の向上を図る。	・将来の農業後継者として農業大学校に10人進学した。 ・地域の様々なイベントに参加した。 ・第21回全国産業教育フェア鹿兒島大会第10回フラワーアレンジメントコンテストで、園芸科3年の片岡由香さんが全国1位、内閣総理大臣賞に輝いた。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
教務部	教育活動が円滑・効率的に機能するような取り組みの研究	平常の教育活動を取り戻す(震災後の不自由に工夫を凝らす。) 授業に対する取り組み方や学習環境の整備改善にあたる。 教育課程の諸課題に関する研究を行う。情報の共有化に関する研究を行う。 職員室の環境整備にあたる。	A C B B	・授業内容の充実。 ・考査内容と評価の検討。	
	基礎学力の向上	授業研究(授業参観等)を実施し、授業内容の充実を図る。 評価規準の検討をし、シラバスの充実を図る。 資格取得に向けて取り組みを強化する。	C B B	B ・仮校舎の教育環境の整備。	
	広報活動の充実	ネットワーク委員会と連携し、ホームページ等を充実させる。 積極的に中学校訪問を実施する。	B A	・資格取得に関する全体計画・指導計画の検討。 ・情報・教材の共有化。	
生徒指導部	基本的生活習慣の確立	再登校指導の継続と違反物預かり指導を実施する。 授業時の制服着用や携帯電話の電源を切らせるなど、望ましい授業態度を養う。 社会的マナーアップの向上を図る。時間遵守と秩序ある生活を送らせる。	B C C	・服装指導の継続と徹底。	
	安全な生活環境維持	バイク違反者の通学許可取り消し等の指導強化を図る。 貴重品の自己管理を徹底させ、盗難や紛失にあわないようにする。 薬物防止教育などを通して規範意識を高め、法律や校則が守れるようにする。 立哨指導等を通して、登下校時の安全を確保する。	B B B A	B ・安全教育の推進。(各種講演会の実施)	
	心の教育の推進	農業教育や道徳教育を通してモラルや命の大切さを養う。 教育相談を通して自己への信頼感が持てるようにする。 ボランティア活動・交流活動・体験活動等への参加を促し、他者との共生、異質なものへの涵養の念を養う。 生徒の活躍の場を作ることで、私はできる(価値がある)と感じられるようにする。	B B A B	・自らの立場を理解し、他を思いやる心の育成。	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
特別活動部	部活動の活性化	部活動の加入率向上を目指す。 活動の成果を高めるためのリーダー育成と環境整備の充実に努める。 スポーツ推薦人数を増やすことで運動部活動の活性化と競技力向上を目指す。	B B B	B ・引き続き部活動への加入率向上に務め部活動の活性化と、競技力向上を目指す。 ・活動場所の環境整備を図る。 ・校舎改築工事の状況下における学校行事の在り方を検討する。
	学校行事の充実	水農祭の内容など計画立案の再検討と、会場の環境整備を図る。 各種学校行事への積極的な参加を通して、生徒に達成感を体験させると共に、クラスの連帯意識を高める。	A A	
	生徒会活動の充実	ホームルーム活動、学校行事との連携を深めた各種委員会活動の充実にを図る。	B	
進路指導部	系統的な進路指導の充実 （多様な進路実現に対応できる指導・援助）	3年間を見通し、ホームルームでの進路指導の充実にを図る。 系統的計画に基づいた各学年別の進路講話、進路ガイダンス、面接指導などの充実にを図る。 各種進路情報の収集と積極的活用を図る。 係分担の明確化と各学年間との連携強化、組織的体制の統合整備を目指す。	B A B A	A ・進路関係情報の共有。 ・進学課外実施に向けて検討。 ・就職指導に向けて、職員が早期に活動を開始する。
	進学指導の充実	推薦・AO入試、小論文対策、作文やレポートの作成指導、面接指導を充実させる。 進学対策のための課外を実施する。	A C	
	就職指導の充実	就職対応の模擬面接指導、履歴書や札状の書き方などの添削指導を充実させる。 積極的な企業開拓と継続的な訪問を実施し、就職情報の提供・共有を図る。	A A	
	勤労観・職業観の育成	インターンシップへの積極的な参加、体験型ガイダンスや進路講話を充実させる。	A	
保健厚生部	生徒の健康安全に関する管理運営	健康診断の実施と共に、保健日誌を活用して生徒の健康状態を把握する。 感染症対策（新型インフルエンザ等への迅速な対応）に万全を期す。	A B	B ・H23年度の目標を継続し、更に達成度を向上させる。12月より放射線量測定と報告が義務化されているので、慎重に継続実施していく。新旧インフルエンザの区別は無くなったが、継続して注意を払う。
	校舎内外の学習環境の安全と美化	清掃区分の明確化及び担当教員による指導・監督の徹底に努める。	B	
	防火防災対策の徹底	緊急時の避難訓練を実施する。 消火訓練を実施する。	A A	
図書部	本校の教育目標に応じた学校図書館作りの研究	農業教育の専門学校として関係書類の整備に努める。 本校の文化センターとしての役割を果たすために、図書・視聴覚資料の整備に努める。 職員研修の成果として、紀要を発行する。	B A A	B ・専門の職員がいないので、図書館業務に大きな停滞を招いている。宝の持ち腐れにならないように整理整頓に心がける。 ・来館者数を増やす工夫が必要である。 ・図書委員会活動を活動化させたい。
	学校図書館を利用した教育の充実	教科指導とつながりをもった教育資料の充実に務め、授業・自主学習の支援をする。 校内読書感想文コンクール、図書委員研修会等の開催や広報誌の発行により、各種情報の収集と発信に努める。 図書委員会活動を活発にし、生徒の読書活動の活性化を図り、図書館利用者を増やす。	A A B	
	視聴覚機器の充実と視聴覚を利用した学校図書館の施設・設備の充実	授業で利用できるソフトと機器の充実にを図り、広く授業、教育活動の場として提供する。 視聴覚室の空調設備を整備する。	B C	
	司書作業の研修と蔵書の整理	利用しなくなった書籍の除籍作業をする。	B	
渉外部	P T A総会の成功	案内文書を各家庭に郵送し周知させ、出席率の向上に努める。 P T A行事と運営委員会を同日に設定し、参加率の向上を図る。	B A	A ・総会通知の郵送の他、重要な連絡のメール配信についても推進していく。 ・17支部になって人数は平均化したが高、低い参加率の向上を目指す。 ・本部行事や運営委員会の参加率は高く、特に水農祭では、まとまってよくできた。 ・会報誌内容も充実して発行できている。
	P T A支部活動の見直し	現状で最も効果的なP T A支部活動を検討していく。その際に、保護者の声、職員の声 を十分に聞き、長続きする体制づくりに配慮する。	B	
	校外生徒指導の実施	後台駅でのあいさつ運動、黄門祭り巡回指導など、多くの会員の参加を促す。	A	
	主催行事の充実	水農祭にP T Aとして参加する。 HPや会報誌を通して各種行事案内や実施報告を行い、参加率の向上に努める。	A A	
農場部	資格取得の合格率の向上	合格率向上のため、計画的な課外学習に取り組み、指導体制を充実させる。	B	A ○農産物直売所の設置・運営。 ・直売場の運営をとおして、学科間の連携を図る。 ・6次産業としての農業を総合的に学習する。 ・担い手育成教育の一環として、後継者の育成を図る。 ・地域に開かれた学校づくりを進める。 ○魅力ある農業教育を図る。 ・各学科の専門性を生かし、特色ある実験実習に取り組み。 ○環境整備と施設・設備の更新を進める。
	農業クラブ活動の活性化	プロジェクト活動を推進し、生徒の自主的・主体的学習の深化を図る。 農業クラブの各種発表や技術競技に意欲的に取り組ませる。	B B	
	「エコロジカル・アグリハイスクール宣言に基づいた行動」 ①基本的な農業技術能力を持つ人材の育成	各学科の専門に関する知識・技術の学習を通して、基礎・基本の確実な定着を図る。 農業担い手育成事業を充実させると共に、デュアルシステム事業に取り組む。	A	
	②食の安全・安心教育の推進 ③奉仕体験活動の積極的導入	安全で質の高い農産物の栽培に取り組む。 農業機械、実験・実習器具の安全な操作や適切な農薬の使用など、安全な学習の徹底を図る。	A	
	④環境教育の推進	校内環境の美化や地域連携活動の一環として草花の苗等の配布活動を継続する。 環境に負荷をかけない農産物の栽培に取り組む。	A	
	⑤開かれた学校を目指すとともに農業教育の普及活動の展開	幼稚園児や小学校児童に対し、農業体験活動の指導・援助の学習を展開する。 いばらきものづくり教育フェアへの参加とその準備を進める。	A A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
事務部	授業料等（学校徴収金）滞納解消	学年・担任との連携のもと、学校徴収金等の滞納者の減少を図る。	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校徴収金等未納者が多く、納入について意識啓発を図る。</li> <li>引き続き東日本大震災による被害箇所の復旧に努める。</li> <li>仮設校舎等建物が増加するので光熱水費の節減に学校全体で取り組む。</li> <li>予算支出にあたっては早期購入及び集合支出を心がける。</li> </ul>
	地震災害復旧及び環境整備の推進	震災で破損した建物等の改修及び生徒の教育環境整備に努める。	A	
	経費の節減	予算削減の折、職員・生徒の意識啓発を図り、節電、節水に努める。	B	
	環境保全に向けた具現化の推進	備品・消耗品等の購入にあたっては、グリーン購入を心がけ、環境保全に努める。	B	
	予算の有効活用	緊縮財政の折、限られた予算で最大の効果が上がるように努める。	B	
国際教育委員会	国際感覚の涵養	早期に募集を開始し、その内容を検討、吟味し、充実した体制をつくる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>日タイ交流では、次年度は受け入れになるので、今回参加した生徒を中心に、早期に準備を始める。</li> <li>ニュージーランド研修は、まずは定員10名を確保する。</li> </ul>
	学校生活の充実	国際交流は、自己の実力の向上に支えられて充実したものになることを認識させることで、学業の充実を図る。	A	
	派遣前の事前指導の充実	語学学習を充実させ、相手国の理解を高めると共に、日本文化の理解を深める。	B	
ネットワーク委員会	ホームページの定期的な更新	教務や事務部とも連携し、迅速に正確な情報の発信に心がける。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>仮設校舎におけるネットワークの整備セキュリティ対策を計画的に行う。</li> </ul>
	ネットワーク及びPCのセキュリティの強化	構内LANの再構築を進め、快適なネットワーク環境づくりに努める。リカバリーソフトの充実や、セキュリティ対策にソフトの更新を進める。	B	
寮務委員会	基本的生活習慣の確立	規律ある共同生活を通して、挨拶を励行し、時間を守る態度を育て、自主・自立の精神の確立を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的生活習慣の更なる確立を図る。</li> <li>週番の仕事、食事当番の仕事を明確にして責任を持たせる。</li> <li>部活やボランティア活動への参加を啓蒙する。</li> <li>学習時間の有効利用を図る。</li> </ul>
	集団における生活ルール意識の育成	週番活動や清掃当番を責任を持って遂行させ、相互協力の精神を高める態度を育てる。寮内外の行事や部活動を通して、意欲的・積極的に参加する心構えを養う。	B	
	家庭・地域との連携	ボランティア活動(地域のゴミ拾い・清掃活動)、営農講話(OB・優良農家など)、資格取得学習の充実を図り、農業や自然環境を重んじる態度を啓発する。	C	
	家庭・地域との連携	保護者の宿泊研修会(講演会・寮体験)や寮協力委員会を充実させ、生徒理解や社会教育の充実・強化を図る。	B	
1 学年	基本的生活習慣の確立	欠席・遅刻・早退の状況を把握し、家庭と緊密な連絡を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路の実現に向けた生徒の意識向上を目指す進路指導を行う。</li> <li>学年集会を通して修学旅行などの団体行動がきちんととれるようにする。</li> <li>生徒指導に係る事件、事故の減少を目標とする。</li> </ul>
	基礎学力の向上	正しい言葉遣いや態度、頭髪・服装等に注意を払う。	B	
	家庭との信頼関係の構築	授業をきちんと受けさせる指導に努め、資格取得を積極的に奨励する。	B	
	家庭との信頼関係の構築	学校の様子を保護者へ詳細に連絡し、理解や協力を得て、問題行動の未然防止に努める。	B	
2 学年	基本的生活習慣の確立	社会との接点を意識し、服装・頭髪や時間・規則など進んで守れるようにする。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業学年として他学年の手本となるような振る舞いができるようにする。</li> <li>自発的な行動力と、事前に準備して物事に取り組めるような行動姿勢をとれるようにする。</li> <li>社会に必要とされる人格の形成を目指す</li> <li>個々の進路実現を図る。</li> </ul>
	進路意識の高揚	道徳心に基づいて適切な善悪の判断ができるようにする。	B	
		学科の実習を通して、積極的にものごとに取り組む姿勢を涵養する。	A	
		ガイダンスや進路講話などを活用し、自己の進路を身近に考えられるような機会を設ける。	B	
	全体指導の促進	ボランティアや体験学習などに取り組み、社会の一員としての意識をもたせる。	B	
	全体指導の促進	資格取得を推奨し、専門知識を習得するとともに進路の選択肢を広げる。	B	
	全体指導の促進	集団生活の中で自己責任や思いやりの気持ちが持てるようにする。	A	
	全体指導の促進	修学旅行や学校行事を契機として、個と社会の関わりを学び、社会の一員としての適切な行動がとれるようにする。	A	
卒業学年	基本的生活習慣の定着	高校生としてふさわしい身だしなみで、しっかりとした言葉づかいや挨拶ができるようにする。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活指導面で、まだ不十分な点も見られるが、全体的に社会人となる自覚が感じられるようになってきた。</li> <li>全般的にねばり強く継続して指導することが大切である。また、指導の成果をすぐには求めず、長いスパンで対応すべきである。</li> </ul>
	進路の実現	規則を守り、物事の善し悪しを的確に判断し、行動できるようにする。	A	
	社会規範意識の確立	個々の生徒が、自己の個性を理解し、進路の実現に向け早期の対応が立てられるように細やかな指導を図る。	A	
	社会規範意識の確立	集団の中で相手の気持ちや立場を考え、責任ある言動がとれるようにする。	A	
	社会規範意識の確立	所属集団の一員としての自覚を持たせ、他学年の模範となるような生活ができるようにする。	B	
農業科	農業教育の充実	魅力ある農業教育を展開し、農業や自然環境を重んじる態度を啓発する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度はプロジェクト学習に力をいれ、農ク県大会に出場できるように指導していきたい。</li> <li>教員間の連携により服装指導が軌道に乗ってきた。次年度も継続したい。</li> <li>教員間の共通理解を図って、放課後の清掃をしっかりと指導する必要がある。</li> </ul>
	基本的生活習慣の確立	農作物の育成を通して、思いやりや環境への関心を高める。	A	
	基本的生活習慣の確立	専門教育学習(プロジェクト学習等)を推進する。	B	
	基本的生活習慣の確立	挨拶を励行し、時間を守る態度を育て、自主・自立の精神を涵養する。	B	
	基本的生活習慣の確立	授業に臨む心がまえや授業態度を向上させる。	B	
	学習環境の安全と美化	農業実習棟や更衣室等の清掃区分を明確化し、教員による指導・監督の徹底に努める。	C	
	学習環境の安全と美化	農業実習棟や更衣室等の清掃区分を明確化し、教員による指導・監督の徹底に努める。	C	
	学習環境の安全と美化	実験実習教室内外の美化及びごみ分別の徹底と減量化に取り組む。	C	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
畜産科	授業態度の向上	授業、実験、実習の開始時整列、返事、服装等きちんとした態度で学習させる。実験実習の準備から展開、後片付けまで生徒の実験実習における自主的参加を図る。	B B	B ・施設の充実を図る。畜産実験実習棟の建て替え女子更衣室・糞尿処理施設の新設。 ・伝染病予防対策と地域社会への牧場開放の両立を図る。 ・資格取得の合格率を上げる。 ・畜産科の地域への広報活動を強化する。 ・畜産部の活動を活発にする。 ・課題研究の内容を充実させる。
	体験教育の推進	主体的、創造的に家畜や動物に触れ、生命を感じる教育を実践する。（分娩管理実習、解剖、解体実習の活用、畜体の測定、動物の運動、食品の加工）	B	
	わかりやすい授業の展開	課題研究において、一人二人の目標に沿った課題の設定や内容の充実を図る。専門科目の内容の特色を出し、資格取得の目標を持たせるなど教育内容の充実を図る。	B B	
	牧場の地域社会への開放	牧場を地域社会に積極的に開放し、教育活動の活性化を図る。	B	
園芸科	わかりやすい授業の展開	専門科目学習における教室授業（座学）と実験実習を一体化し、意欲的に学習する態度の育成を図る。	B	B ・仮設校舎への移動や新校舎建設など大きく学習環境が変わる中で、生徒が安心して学校生活を送れるよう、きめ細かな指導をしていく。 ・実験・実習の時間をしっかりと確保し、体験的な学習ができるような体制作りを行う。 ・課題研究・農業クラブの成果を継続させ、発展できるように指導していく。
	園芸作物の栽培技術の習得	プロジェクト学習の取り組みと、育苗から収穫までの栽培管理実習の強化を図る。資格取得の充実を図る。	B B	
	生徒の心のケアを図る	被災したことにより、精神的に不安定になったり、また経済的に苦しくなってしまった生徒がいると考えられる。生徒の様子を注意深く観察し、心のケアをしていく。	A	
	実習時間の確保	震災に伴い、施設の破損や授業形態の変更を余儀なくされている。そのような環境でも、実習の時間をしっかりと確保できるように、学科内で工夫し、実践的な実習が展開できるように努める。	C	
	プロジェクト活動・課題研究発表会の充実	課題研究・農業クラブ活動で、一人一人がテーマを設定し、自ら問題点を解決していく力を育成する。課題研究発表会で、意欲的に発表できるよう、きめ細かな指導を行う。	A A	
生活科学科	「つくって食べる」という食農教育の推進	自産自消、旬産旬消、地産地消という考えを基本に、年間60品目以上の作物をつくり、自給の体験を通して生きるということの本質を理解する。	B	B ・今年度は同じ作物でも各学年ごとに分担区を決め、生育の違い等の比較を行い良い結果が出せた。しかし、栽培できる品目が少なくなってしまうため、次年度は多品目の栽培を目指したい。
	自立した生き方、本来あるべき生き方の探求	1年 「作物を栽培して、それを食材として調理・加工して食べることに興味を持ち、食べることを理解する。 2年 栽培管理ができるようになることを通じて、自信と誇りをもつ。 3年 自ら課題を設定し解決することで、自立した生き方につなげる。	B B B	
	基本的な生活習慣の確立	体験学習を通して、社会人として必要な礼儀、基本的な生活習慣を身につけさせる。節度ある授業態度を身につけさせるとともに、学習の基礎基本を充実させる。	B A	
農業土木科	資格取得教育の推進	専門教科に関係する資格が取得出来るよう、課外指導の徹底と充実を図る。	B	A ・企業、会社から受け入れられる人材を育成する。 ・資格取得の向上と指導法の確立を図る。 ・建設業協会と連携して進路開拓を進める。 ・課題研究は発表まで継続した指導を行う。
	進路指導の充実	生徒の希望する進路実現のため、進路開拓や継続した指導を展開する。	A	
	課題研究の充実	専門教科の完成として充実した内容の展開を図る。	A	
	組織的・計画的な学科運営	週1回の学科会議を開催。学科内行事・実習記録の作成。引き継ぎ資料の作成。	A	
食品化学科	クリーンで安全な環境づくり	清掃の徹底。備品・薬品の整理。授業・実習中の安全教育の徹底。実験着・実習服の適切な着用の徹底。	B	B ・課題研究、資格取得指導方法についての検討。 ・進学希望の生徒に対する計画的・継続的な支援のあり方を検討。
	進路指導の充実	進学希望の生徒に対する計画的・継続的な支援のあり方を検討。	C	
	基本的な生活習慣の確立	登校時・授業における服装指導の徹底。	B	
農業経済科	基本的な生活習慣の確立	身だしなみやマナーについて、授業や集会において、状況に応じたアプローチを行うことで自ら意識できるようにする。	B	B ・基本的な学習習慣を身につけさせる。 ・意欲的に資格取得に取り組む態度を育てる。
	学習意欲の向上	実技を多く取り入れ、授業に取り組む基本的な習慣を身につけさせる。	B	
	資格取得に推進	総合実習などで検定対策の授業を行い、進度に応じた個別指導も充実させる。	C	
定時制農業科	確かな学力の定着	教材を精選し、基礎学力を身につけさせる授業展開を行う。基本的な学習態度の育成を図り、成就感を味わえるような授業展開をする。個の能力に応じた指導により、基礎学力の向上に努める。	B B B	B ・基礎学力を付けさせるため、生徒個人向けの課題を用意し、進学、就職の準備をする。 ・個人面談を行い生徒の性格の把握と理解に努める。 ・仮設校舎移動に向けて、教室環境の整備に努め、生徒が勉強しやすい環境を作る。
	生徒理解の充実	生徒・保護者との面談機会を確保する。保護者や出身中学校と密接に連絡を取り生徒理解に努める。	A A	
	進路指導の充実	ホームルームや道徳の時間を中心に、自己の将来を見つめさせ、その展望を考えさせる。アルバイト等の社会体験を通して、早期から進路意識を啓蒙する。進路意識を啓蒙する取り組みを学年毎に企画・立案し、進路指導の充実を図る。ハローワークとの連携を密にし、進路実現に努める。	B B C C	
	自信を持てる体験学習等の充実	生徒が自信を持てる何かを見つける取組をする。インターンシップ等、生徒が自分に自信を持つことができる体験活動を充実させる。	B C	
	基本的な生活習慣の定着	常に元気なあいさつが交わせる明るい生活環境をつくる。人の話を聴ける態度を身につけさせる。一人一人に応じた適切な教育や支援を実践する。	A A A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
国語科	基礎学力の向上	基礎・基本を定着させるため、生徒の実態に沿った授業を展開する。 授業参観を通じて、情報交換や指導力の向上を図る。 小テストや課題プリントを作成・活用し、言葉の理解の定着を図る。	A D B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報交換を的確に行い、生徒の実態に沿った授業展開ができるように努力する。</li> <li>社会に通用する漢字力、語彙力等、基礎的な国語力を身に付けられるよう指導する。</li> </ul>
	表現力の向上(進路対策)	長期的・段階的に、自分の考えを文章にまとめる力を育成する。 生徒の進路に応じた個別指導を実施する。	A B		
地歴・公民科	我が国及び世界が形成される歴史的過程・地域的特色及び現代の社会についての理解と知識の深化	新聞や視聴覚教材など多種多様な教材を用いながら、授業内容を分かりやすく伝える工夫をする。 基本的な事項・事柄を精選し、それぞれの科目の特長を生かした指導内容を構成する。	A A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が興味関心を持って取り組める授業を行う。</li> <li>社会的な事象や歴史の根本問題をとらえられるように授業を工夫する。</li> </ul>
	国際社会に主体的に生きる民主的、平和的な国家・社会の一員として必要な自覚と資質の涵養	授業に臨む姿勢をつくるため、ノートや補助教材を準備させることはもちろんのこと、携帯電話の扱いについても注意を払う。 ノート提出等を定期的実践し、生徒が主体的に授業に取り組めるように指導する。	A A		
数学科	基礎学力の向上	基礎・基本の定着を図るため、生徒の実態に沿った授業を展開する。 基礎学力が定着していない生徒へ充実した個別指導を実施する。 また、進学希望の生徒に対しても、個別に課外を実施するなどの対応をする。	B B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>MathWeekが実施できてない。実施時期が水農祭に近く腰を据えて授業に取り組めないことにある。時期を検討したい。</li> <li>数学検定の受検者が減少している。広報活動を盛んにし、増やしていきたい。</li> </ul>
	数学検定資格取得の奨励	年3回の実施により、学習意欲を高め、資格取得を積極的に促し、課外や個別指導を実施する。	C		
	教員の指導力の向上	授業公開週間(Math Week)を11月の第2週目に設けて、自己研鑽に努める。	C		
理科	基礎学力の向上	各科の学習内容と関連した授業内容を精選し、本校生にあった教材を作成する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力の向上。</li> <li>進路に応じた個別指導の充実。</li> </ul>
	興味・関心の向上	科学のトピックスの紹介などを通して、農業と生物・化学の関連性を理解させる。	C		
	進路指導への積極的な関わり	課外の実施と個別指導を充実させる。	B		
英語科	基礎学力の向上	教科書だけでなく、辞書や副教材等を活用し、基礎的なところから学習できる環境を与え、きめ細やかな指導を行う。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひきつづき学習の用意の徹底と基礎学力の向上を目指す。</li> <li>並行して英検受験者や大学進学者への少人数指導などにも力を入れる。</li> </ul>
	モチベーションの向上	A L Tを活用し、より実践的な生きた英語を学ぶ機会を与える。 魅力ある授業展開を通じ、英語の授業に取り組む意欲を高める。	B B		
	資格取得の奨励	授業中、積極的に資格取得を呼びかけ、英検対策の授業、課外、面接対策を積極的に行う。 英検受験対策用の問題集などを用意する。	A A		
保健体育科	体力の向上	生涯にわたり主体的に活動できる体育学習を推進する。 自己の体力に応じて目標を定め、計画的に運動を行う。 体育授業における服装指導等の徹底を図る。	B B B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>道具の準備、片付けを徹底させる。</li> </ul>
家庭科	家庭生活課題を主体的に解決する能力の涵養	実験・実習を通して技術の習得を図るとともに、心のふれあいを持ち、豊かな人間性と生きる力を育む。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>製作手帳の説明を良く聞く態度を育成する。</li> <li>個別指導では、心のふれあいを持ちながら粘り強く学習に取り組む態度を養う。</li> </ul>
	家庭生活の充実向上を図る能力と、実践的な態度の育成	体験学習、視聴覚教材の利用、新聞記事の活用などにより興味・関心を高め、身近な問題としてとらえさせる。	B		